



## 平成24年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成23年11月9日

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社  
コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 村田 隆

TEL 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	25,846	1.6	952	37.7	935	37.3	498	39.4
23年3月期第2四半期	25,434	3.0	1,528	3.3	1,492	1.8	822	9.9

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 481百万円 ( 35.9%) 23年3月期第2四半期 750百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	35.07	
23年3月期第2四半期	64.95	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	30,548	12,908	42.3
23年3月期	30,753	12,711	41.3

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 12,908百万円 23年3月期 12,711百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期		0.00		20.00	20.00
24年3月期		0.00			
24年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,400	3.5	2,150	22.5	1,900	29.1	900	31.8	63.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	14,211,000 株	23年3月期	14,211,000 株
期末自己株式数	24年3月期2Q	91 株	23年3月期	91 株
期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	14,210,909 株	23年3月期2Q	12,666,965 株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表のレビュー手続は実施中でありませぬ。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、当第2四半期決算短信添付資料5ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料、動画、主なQ & A等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

・平成23年11月24日(木)……機関投資家・アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興に向けて物流網等の社会インフラの復旧や生産拠点の操業再開等の企業活動の正常化が急速に進み、多くの企業において、ほぼ震災前の水準にまで回復することができました。また原子力発電所の事故による電力供給不足も懸念されておりましたが、企業の操業・営業日時の変更をはじめとした節電対策の実施、家庭での節電努力等により大きな混乱もなく、夏の電力需要のピーク時期を乗り切ることができました。個人消費につきましても、いわゆる自粛ムードが和らいだことや、東北地方を応援するイベントが各地で開催されるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、平成22年3月期よりスタートさせました中期経営計画『KENKO Victory ROAD 2011（以下、KVR2011）』は最終年度を迎え、目標の完全達成に向けて推進しております。また当社グループの事業戦略を、「新たな成長を目指して、新しい『ケンコースタイル』を創る」とし、5つの具体的な方向性を掲げております。

- ① サラダから総菜へ、業域を拡大する  
従来の「サラダ」という切り口から、「総菜」に関する事業全体へ業域の拡大を目指す。
- ② マヨネーズ・ドレッシングからソースへ、業域を拡大する  
「マヨネーズ・ドレッシング」という切り口から「ソース」まで枠を拡げ、ソース類製造業のポジションを確立する。
- ③ タマゴ加工品は殻付きタマゴからタマゴ製品まで、事業範囲を拡大する  
殻付きタマゴからタマゴ加工品まで、一貫したシステムを作り、それぞれの段階で、こだわった商品と効率的な生産を目指す。
- ④ 業務用メーカーから市場演出型企業へ存在感をアップする  
従来の縁の下の力持ちという存在から、様々な食スタイル・食シーンを演出できる企業づくりを目指す。まず「サラダカフェ」を活用し、積極的な提案を進める。
- ⑤ 海外事業の拡大  
海外事業のうち中国事業に関しては、マヨネーズ・ドレッシング類を生産する杭州新工場の稼働準備を進めており、東莞のサラダ工場とリンクさせながら、中国市場への浸透を図る。

事業戦略の方向性実現に向けた取り組みの一部としましては、前連結会計年度末の東京証券取引所市場第二部への上場を契機に、テレビ・雑誌等のマスメディアへ取り上げていただく機会が増加いたしました。これも市場演出型企業実現へ向けた重要な活動の一環と捉え、ブランドの浸透や企業イメージの向上につなげてまいります。また「サラダカフェ・ブランド構築プロジェクト」を発足し、ブランド力の一層の向上に向けての取り組みを開始いたしました。

当第2四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

## ① 売上高

売上高につきましては、5月度以降は東日本大震災による自粛ムードが和らいだことや、前連結会計年度末に東京本社に開設しました「Cooking Labo TOKYO」へお客様を積極的に招聘し、お客様との共同試作を通じての情報交換等を進めたこと等により、前年同四半期を上回る水準で進捗いたしました。また8月度以降は外食業界向けをはじめ期間キャンペーンや新メニューへの採用が続き、売上高の増加ペースを更に加速させることができました。その結果、当第2四半期連結累計期間における連結売上高は、前年同四半期に対して増収を達成でき、また、平成23年5月10日に公表しました連結業績予想の売上高予想に対してもほぼ予定どおり進捗いたしました。

## ② 利益

利益面につきましては、穀物相場をはじめとする原料価格高騰への対策として、全部門において事業計画の見直しや活動経費の徹底的な削減等により吸収を進めてまいりました。また国内の原料事情につきましても、東日本大震災直後は原料価格が高騰しておりましたが、夏場以降は平常時の水準にまで落ち着きを見せたことも利益水準の回復に寄与いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間における連結営業利益及び経常利益並びに四半期純利益はいずれも、平成23年5月10日に公表しました連結業績予想を上回って進捗いたしました。

当第2四半期連結累計期間における売上高は25,846百万円（前年同四半期比412百万円の増加、1.6%増）、連結営業利益は952百万円（前年同四半期比576百万円の減少、37.7%減）、連結経常利益は935百万円（前年同四半期比557百万円の減少、37.3%減）、連結四半期純利益は498百万円（前年同四半期比324百万円の減少、39.4%減）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

## 調味料・加工食品事業

＜調理加工食品＞につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、パスタサラダ、ゴボウサラダ、ツナサラダ等に加えて、春雨、パンプキン、豆等の素材を活かした商品や明太子を使用した商品が好調に推移いたしました。特にゴボウサラダにつきましては、製パン・外食・量販店向け等で伸張いたしました。

＜マヨネーズ・ドレッシング類＞は、量販店向けの1kgや500g形態のマヨネーズが好調を維持し、大型形態のドラムやタンク、10kg形態のマヨネーズも引き続き伸張いたしております。また、前期に設備投資を実施しました西日本工場の最新ライン製造のドレッシングも着実に育成が進んでおります。外食向けの商品が好調に推移したことも、マヨネーズ・ドレッシング類の前年同四半期比での増収に寄与いたしました。

＜タマゴ加工品＞は、製パン向けのタマゴサラダ、弁当・すし用の厚焼き卵、錦糸卵、茹で卵が大手コンビニエンスストアで採用されたことにより大幅な数量増加となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は21,724百万円、セグメント利益は825百万円となりました。

## 総菜関連事業等

主要な原料である卵の価格が震災直後に高騰し、また野菜類の価格が台風の影響等により高騰いたしました。生産拠点の統合をはじめとしたコストダウンや経費削減対策の実施を行うとともに、収益構造の分析に基づく商品政策を実施してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は3,658百万円、セグメント利益は125百万円となりました。

なお、先の定時株主総会において7名の新任取締役の承認をいただいております。この新しい経営体制のもと、現在の中期経営計画『KVR2011』の目標を完全達成させるとともに、今後の更なる飛躍に向けて、次期を初年度とする新中期経営計画の策定に着手いたしました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、30,548百万円（前連結会計年度比205百万円の減少、0.7%減）となりました。これは、主として現金及び預金が650百万円減少したこと等によるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、17,639百万円（前連結会計年度比403百万円の減少、2.2%減）となりました。これは、主として長期借入金が359百万円減少したこと等によるものであります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、12,908百万円（前連結会計年度比197百万円の増加、1.6%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は42.3%（前連結会計年度比0.9ポイント増）となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、4,907百万円（前連結会計年度末比11.7%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は、1,256百万円（前年同四半期比468百万円の増加）となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益902百万円、仕入債務の増加額742百万円、法人税等の支払額448百万円等によるものであります。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は、1,256百万円（前年同四半期比392百万円の使用資金の増加）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出1,086百万円等によるものであります。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は、651百万円（前年同四半期比141百万円の使用資金の増加）となりました。これは、主に短期借入金の増加額350百万円、長期借入金の返済による支出712百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間において当初の連結業績予想に対し、以下のとおり変更いたしました。なお、通期連結業績予想につきましては、平成23年5月10日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

(修正前：平成23年3月期 決算短信1ページ「3. 平成24年3月期の連結業績予想」)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,000	2.2	900	△41.1	800	△46.4	370	△55.0	26 04
通期	52,400	3.5	2,150	△22.5	1,900	△29.1	900	△31.8	63 33

(修正後)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,846	1.6	952	△37.7	935	△37.3	498	△39.4	35 07
通期	52,400	3.5	2,150	△22.5	1,900	△29.1	900	△31.8	63 33

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じる方法等により計算しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## (4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,557	4,907
受取手形及び売掛金	8,269	8,679
商品及び製品	1,135	1,268
仕掛品	13	18
原材料及び貯蔵品	720	716
繰延税金資産	328	333
その他	179	126
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	16,203	16,048
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,709	4,622
機械装置及び運搬具(純額)	3,101	3,040
土地	3,879	3,879
その他(純額)	370	308
有形固定資産合計	12,060	11,850
無形固定資産		
無形固定資産合計	266	296
投資その他の資産		
繰延税金資産	256	242
その他	1,996	2,145
貸倒引当金	△29	△35
投資その他の資産合計	2,222	2,353
固定資産合計	14,550	14,500
資産合計	30,753	30,548

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,103	6,845
短期借入金	1,410	1,760
1年内返済予定の長期借入金	1,159	806
未払法人税等	491	429
賞与引当金	381	382
その他の引当金	130	157
その他	3,605	3,066
流動負債合計	13,281	13,447
固定負債		
長期借入金	2,670	2,310
退職給付引当金	439	488
その他の引当金	163	131
その他	1,488	1,261
固定負債合計	4,760	4,192
負債合計	18,042	17,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,043	8,257
自己株式	△0	△0
株主資本合計	12,672	12,886
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	39
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	△9	△17
その他の包括利益累計額合計	38	21
純資産合計	12,711	12,908
負債純資産合計	30,753	30,548

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	25,434	25,846
売上原価	18,183	19,194
売上総利益	7,250	6,651
販売費及び一般管理費	5,722	5,699
営業利益	1,528	952
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	10	10
その他	38	35
営業外収益合計	51	46
営業外費用		
支払利息	65	51
為替差損	18	—
その他	2	12
営業外費用合計	86	63
経常利益	1,492	935
特別損失		
固定資産除却損	1	11
投資有価証券評価損	31	2
減損損失	9	1
災害による損失	—	7
事業整理損失	—	8
その他	11	1
特別損失合計	54	33
税金等調整前四半期純利益	1,438	902
法人税、住民税及び事業税	600	405
法人税等調整額	15	△1
法人税等合計	615	404
少数株主損益調整前四半期純利益	822	498
四半期純利益	822	498

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	822	498
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△72	△10
繰延ヘッジ損益	2	1
為替換算調整勘定	△1	—
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△7
その他の包括利益合計	△72	△16
四半期包括利益	750	481
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	750	481
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,438	902
減価償却費	495	494
減損損失	9	1
引当金の増減額(△は減少)	182	125
受取利息及び受取配当金	△12	△11
支払利息	65	51
売上債権の増減額(△は増加)	△463	△409
たな卸資産の増減額(△は増加)	△24	△133
仕入債務の増減額(△は減少)	425	742
未払金の増減額(△は減少)	△196	△70
その他	△41	51
小計	1,877	1,744
利息及び配当金の受取額	12	11
利息の支払額	△65	△51
法人税等の支払額	△1,036	△448
営業活動によるキャッシュ・フロー	788	1,256
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△744	△1,086
有形固定資産の売却による収入	11	92
無形固定資産の取得による支出	△125	△75
関係会社株式の取得による支出	—	△177
子会社出資金の取得による支出	△29	—
その他	24	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△863	△1,256
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	50	350
長期借入れによる収入	940	—
長期借入金の返済による支出	△1,144	△712
自己株式の取得による支出	△162	—
配当金の支払額	△191	△283
その他	—	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△509	△651
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△586	△650
現金及び現金同等物の期首残高	5,606	5,557
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,019	4,907

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・加工 食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	21,089	3,894	24,983	450	25,434	—	25,434
セグメント間の内部売上高 又は振替高	235	3,705	3,941	—	3,941	△3,941	—
計	21,324	7,600	28,924	450	29,375	△3,941	25,434
セグメント利益	1,298	201	1,499	4	1,504	△11	1,492

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△11百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・加工 食品事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	21,724	3,658	25,383	462	25,846	—	25,846
セグメント間の内部売上高 又は振替高	252	4,277	4,529	—	4,529	△4,529	—
計	21,976	7,936	29,912	462	30,375	△4,529	25,846
セグメント利益又は損失(△)	825	125	950	△4	945	△10	935

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△10百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。